

令和6年度 経営改革プラン

団体名	一般財団法人神戸観光局
-----	-------------

設立年月日	昭和62年4月1日	
団体の設立目的・沿革	神戸市及び周辺地域で形成する「神戸観光圏」における多様な観光資源の魅力を最大限に活かし、公民連携により、観光事業を国内外において戦略的に推進するとともに、MICEの誘致・支援等の事業を行うこと、また神戸港の振興事業を推進することにより、地域経済の発展と市民文化の向上、さらには国際交流及び国際親善、神戸港の発展に寄与することを目的とする。	
団体の主な事業内容	事業名	所管局
	観光事業	経済観光局観光企画課
	フィルムオフィス事業	経済観光局観光企画課
	MICE推進事業	経済観光局観光企画課
	港湾振興事業	港湾局振興課
	客船誘致事業	港湾局振興課
	施設管理事業	経済観光局観光企画課 港湾局経営課・神戸港管理事務所
	上記に付随して実施する観光、MICE、港湾の各事業	自主事業
代表者	会長 尾山 基	

役職員数 (令和5年7月1日時点)	理事・評議員		監事		職員		合計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	有期	無期	
団体固有職員	-	-	-	-		59	59
神戸市派遣職員	4	2	-	-		6	12
神戸市OB職員	1	-	-	-	-		1
その他	-	27	-	2	17	1	47
合計	5	29	-	2	17	66	119

財務状況（単位：百万円）	令和4年度	令和3年度	差引
經常損益	39	▲ 66	105
当期正味財産増減額	▲ 2	▲ 52	50
流動資産	1,649	1,470	179
流動負債	757	579	178
長期借入金（固定負債）	0	0	0
期末現金預金残高	1,271	1,124	147

■中長期的なミッション（神戸市行財政改革方針2025期間中のミッション）

ミッション①	観光庁登録「地域DMO」として観光による地域づくりを推進
ミッション②	持続可能な神戸観光の推進のための財政基盤の確立
ミッション③	観光の専門人材の育成・確保

■短期的なミッション（令和6年度のミッション）

ミッション①	中期ロードマップfor 2025を踏まえた取り組みの着実な実施
ミッション②	収入の拡大に伴う財政基盤の安定
ミッション③	活力ある組織運営の実施

■経営指標（令和4年度）

経営指標				令和3年度	令和4年度	前年度比増減
人的 パフ オー マンス	職員 一人 あたり 純利益	純利益/職員数	職員1名あたりが、どの程度の利益を上げているか。(百万円)	▲ 0.762	▲ 0.038	0.7ポイント
	経常費用 人件費比 率	人件費/経常費用×100%	経常費用に占める人件費の割合がどの程度あるか。	27.24%	22.70%	-4.5ポイント
財政的 パフ オー マンス	総資本 経常利益 率	経常利益/総資本×100%	経常的な収益性はどの程度見込まれるか。	-1.45%	0.82%	2.3ポイント
	流動資産 回転率	売上高/流動資産×100%	流動的な資金が効率的に運用されているか。	154.41%	166.58%	12.2ポイント
財政 安定 性	流動比率	流動資産/流動負債×100%	短期的な資金をどの程度確保できているか。	253.89%	217.90%	-36.0ポイント
	自己資本 比率	自己資本/総資本×100%	団体固有の資本がどの程度あるか。	72.45%	69.73%	-2.7ポイント
持 続 性	自己資本当 期純利益率 (ROE)	当期純利益/純資産×100%	資本を効率的に運用しているかか。	-1.58%	-0.07%	1.5ポイント
	純資産 増加率	(当期純資産-前期純資産)/ 当期純資産×100%	純資産が持続的に増加しているか。	-1.58%	-0.07%	1.5ポイント

■ ミッション工程表

ミッション名		令和6年度					令和7年度～							
中長期的ミッション														
①	観光庁登録「地域DMO」として観光による地域づくりを推進	神戸観光局中期ロードマップ、神戸インバウンド戦略、国内旅行戦略等に基づいた神戸観光の推進												
②	持続可能な神戸観光の推進のための財政基盤の確立	健全な財政運営を図るための新規会員企業の開拓や収益事業の育成による収入の確保、自主事業の見直し												
③	観光の専門人材の育成・確保	民間人材の登用や民間企業からの受入拡充、プロパー職員の人材育成												
ミッション名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
短期的ミッション														
①	中期ロードマップfor 2025を踏まえた取り組みの着実な実施	インバウンドの誘客推進、観光資産を活用した滞在型観光「神戸のとびら」の充実、神戸夜市・夜型観光コンテンツの開発によるナイトタイムエコノミーの推進、平日の宿泊・観光需要を喚起するMICE誘致、SDGsプログラムを活用した教育旅行誘致、ユニバーサルツーリズムの推進、ウォーターフロントエリアの活性化、会員企業との連携強化												
②	収入の拡大に伴う財政基盤の安定	タイムリーな施策展開によって神戸観光局の存在感を高めるとともに、会員向け情報（マンスリレポート、ニュースレター）の充実等により事業者に頼られる存在となることで新たな会員企業の獲得を目指す。また、国際会議場・国際展												
③	活力ある組織運営の実施	観光庁や日本政府観光局（JNTO）等の公的機関が実施する研修プログラムを活用するとともに、民間研修機関の活用												

■ ミッションを踏まえた団体目標

	<p>団体目標</p>	<p>令和7年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光消費額3,700億円、日本人延べ宿泊者数590万人、外国人延べ宿泊者数100万人、国際会議開催件数420件 ・自主財源の確保 ・民間人材の知見の活用と組織内での知見の共有
<p>目標及び実現方法</p>		<p>民間人材の登用、民間企業からの受入等を進め、組織の活性化を図るとともに、職員の育成を進めていく。新たな民間人材の活用にあたっては、観光庁補助事業も活用しながら実施していく。また、プロパー職員の意欲・能力を引き出すため、目標管理・人事評価制度を効果的に運用するとともに、民間研修機関の活用による研修の充実に取り組む。なお、法人財政の厳しい状況を踏まえ、市による人件費の財政措置を前提として、市派遣職員の置き換えを進めていく。</p>
		<p>情報収集と分析を強化し、会員向けには、マンスリレポートやニュースレター等を活用したマーケティング情報等の提供や、会員間の情報共有や交流の場である「神戸観光LINK café」の開催、研修・セミナーの実施等、地域DMOとして神戸観光局のプラットフォーム機能を高めていく。</p>
		<p>デジタルプロモーションやデジタルマーケティングを強化し、時代の変化に適応した取り組みを進めていく。また、2025年の神戸空港への国際チャーター便の就航や大阪・関西万博の開催を見据え、インバウンドの誘客推進に注力するとともに、神戸らしさを活かした観光コンテンツ「神戸のとびら」の充実や神戸夜市・公民共創事業での民間事業者との連携、神戸2024世界パラ陸上とも連携したユニバーサルツーリズムの推進等、引き続き新たな神戸観光の魅力を創出・発信していく。</p>
		<p>国内・海外の情勢を踏まえながら、これまで築き上げてきたネットワークを活用して誘致活動を強化し、神戸のMICEを推進していく。また、神戸市によるウォーターフロントエリア再開発と歩調を合わせ、市や(株)神戸ウォーターフロント開発機構と連携して、ウォーターフロントエリアでの「みなとHANABI」「ライトフェスティバル メヤメヤ」の開催など、みなとの賑わいづくりに取り組む。</p>
		<p>健全な財政運営の確立とオール神戸での観光振興を進めるため、観光関連業事業者以外も含めた新規会員企業の獲得を進めるとともに、「KOBE観光スマートパスポート」や「神戸のとびら」などの収益事業を育成し、自主財源の確保に努める。また、公益目的で実施する自主事業について、事業の意義、必要性、費用対効果等を総合的に検証し、必要な見直しを進めることで、経営改善を図っていく。</p>
		<p>神戸市が100%出捐する外郭団体・公益法人であることに鑑み、外部の専門家の知見も活用しながら、障がい者の雇用促進に向けた取り組みを進める。</p>

■ 市支援策の活用状況（令和5年度）

<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体共通内部通報窓口	<input type="checkbox"/> 経営懇談会	<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体職員向け研修	<input type="checkbox"/> 民間代替性調査
<input type="checkbox"/> 専門家紹介制度	<input type="checkbox"/> 経営診断	<input type="checkbox"/> 企業統治状況調査	